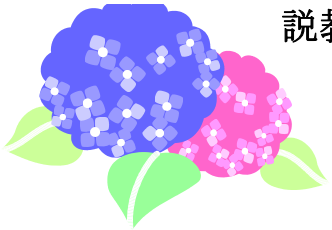

説教要旨「必要とされる喜び」

使徒言行録１章　６～１１節

同じ言葉を使いながら、違う意味で受け止めてしまって、かみ合わない。そんなことが、イエス様と弟子たちとの間でも生じていました。

「イスラエルのために国を建て直す」（6 節）こと、弟子たちはイエス様がこれまで語られてきた『神の国』をそのように理解していました。

イスラエルをローマ帝国の支配から解放し、神の王国を確立する。そのような救いをもたらす救い主をイスラエルの民は待ち望んでいました。弟子たちは、今こそイエス様によってその救いが実現するのではないか、と期待しています。

しかし、イスラエルの再興を期待する弟子たちに、イエス様が示されたのは、そのようなイスラエル王国の建設ではありませんでした。イエス様によって打ち立てられる『神の国』は、イエス・キリストを宣べ伝える証し人の群れ、即ち教会の誕生とその歩みです。弟子たちが使徒として、イエス・キリストの証人として派遣されていくこと自体が、イエス様の言う、イスラエルのための国の建て直しです。

弟子たちが思い描いていた、「イスラエルのための」国の建て直しによる、救いの対象は、あくまでイスラエルの民、神に選ばれた民であるユダヤ人限定でしたが、けれどもイエス様はここで、彼らが聖霊の力を受けて、「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」（8 節）ことを示されました。

使徒たちはこの言葉の通りに、聖霊によって力を与えられ、キリストの証人として、ユダヤとサマリアの全土に、そして地の果てにまでイエス・キリストの福音を宣べ伝えていくことになります。

それは弟子たちの頑張り次第で、福音が遠く広がっていくということではありません。結果はすでに確定しているのです。「地の果てまでも主の復活の証人となる」という神の計画の実現のため、使徒たちが、そしてわたしたちは、用いられていくのです。この神の計画は、人間の力で成し遂げられるものではありません。力無き人間にすぎないわたしたちが、聖霊の導きによって神の働き手とされていくのです。

（２０２１・６・６　説教者：稲垣真実）